

《河川管理者への要求・2 題》

＝不信を増大させている不透明性＝

月ヶ瀬憲章の会 浅野 隆彦

河川管理者に対し、2 つ申し上げたい。

木津川上流の治水を考える時、その検討の前提たる「現況における岩倉峡の疎通量」を、責任ある数値として明白にせず、50 年も前の島ヶ原地点観測値などからの推定により、岩倉水位観測所地点で $2,940 \text{ m}^3/\text{s}$ とし、今だに実証的調査もせず、古臭い数値にコダワルのはイイカゲンに止めて頂きたい。

9 月 15 日付「意見書No.492」に於て指摘したように、河川事務所が平成 5 年作成の「観測流量表」でも、水位 10.50m、即ち計画高水位 E.L136.59m に於て、 $3,630.61 \text{ m}^3/\text{s}$ の流量と出ています。これは、既往最大洪水である(5313 洪水)の流出に対応する計画高水量 $3,532 \text{ m}^3/\text{s}$ を上廻ります。即ち、狭穿部上流に対する現目標からすれば、「上野遊水地さえ要らなかったではないか。あとは堤防の整備を充実したり、様々の流域対応をしてゆけば、少々の超過洪水に対しても、被害の軽減という成果は確実に為せる。・・・」との意見も成立するところであります。

ここは速やかに、根拠のある「現況における岩倉峡の疎通量」を示し、上野遊水地の最も効果的な働きを検討した上での設定と合せると、既往最大(5313 洪水)の流出量に対し、何倍の規模まで氾濫なしでいけるか、という「判りやすい形」で示して頂きたい。又、その検討では、合流部付近の河川堤防における余裕高さを確保し、破堤による氾濫を防ぐ為にも、越流堤の高さは、E.L136.2m 平均とするべし、とする私の論も、十分考慮して欲しいと思っています。

次は、川上ダム建設予定地周辺の「付替県道・付替町道」の問題です。これらは、その計画図を見ると、ダム本体と原石山、残土捨て場、採石加工プラントなどの連絡が密接な、事実上の工事用道路であります。これは、8 月 4 日付「意見書No.470」で指摘し、委員会の「基礎原案に対する意見書」にも苦言を呈したばかりですが、よくよく調査すると、この付替町道たるや、どこにも水没する事で付替えを必要とするものが見当らない。「兼用」と言ったりもしているが、完全に「工事用専用道路」であります。

そして、この付替町道ができるのであれば、「付替県道青山・美杉線」は全く無用であり、「無駄金使い」と言えます。国道等へも、町道経由の方が短距離です。

最も重要な事は、「付替県道青山・美杉線」が、この地域最大の「生物宝庫の地」を縦断するルートに計画されていることであります。希少種オオタカ数番いの営巣をはじめ、猛禽類数種の営巣や、サルその他の重要種 20 種類ほどの棲息が認められている、前深瀬川と川上川に限られた人間の立入りが少ない地域であるがこその場所であるのに、何故このような「無駄な、環境無視」のルートを選定したのであるか、やはり基本的に、ダム事業者は「環境」を厄介者と見ているのでしょうか。

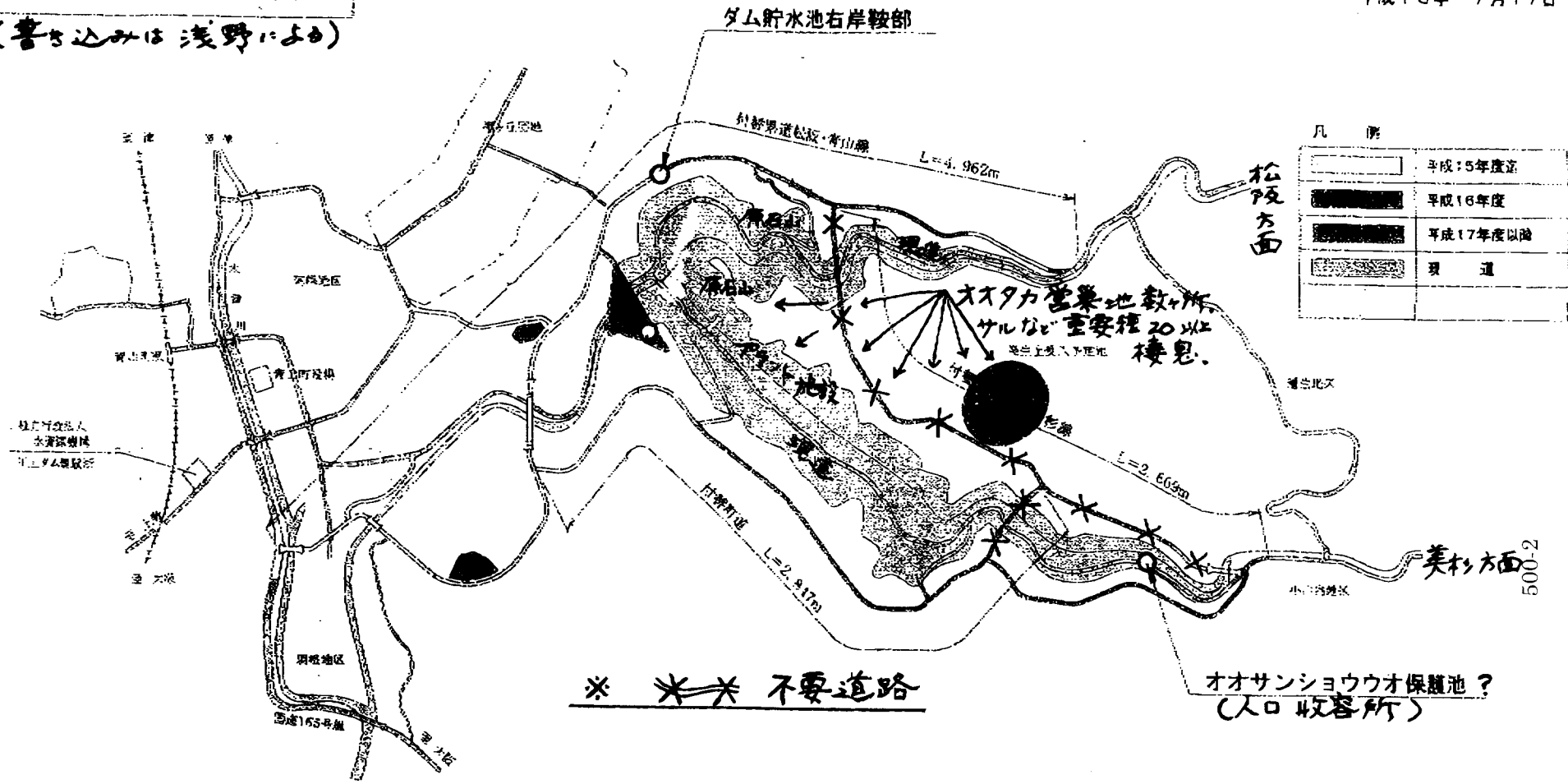
この「付替県道青山・美杉線」は、計画から完全に外して貰いたいと要求いたします。

平成16年度川上ダム施工概要図

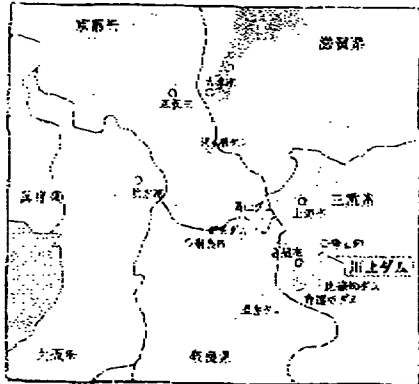
(書き込みは浅野による)

平成16年 7月17日

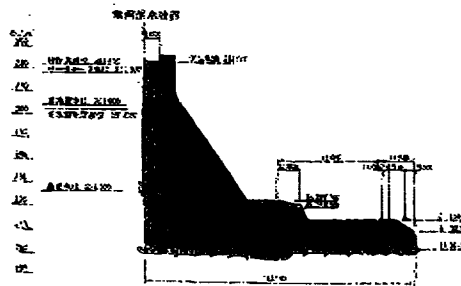
参考図「3kmも重大環境破壊の不要道路」



ダム位置図



標準断面図



ダム下流面図

